

宮繕のあゆみ 2010



沖縄県警察運転免許センター（豊見城市）

営繕のあゆみ2010

—第26号—

目 次

発刊にあたって

| | |
|------------------------------------|----|
| I. 業務概要 | |
| 1. 業務の目的 | 1 |
| 2. 業務の概要 | 1 |
| 3. 年度別業務量の推移 | 2 |
| 4. 平成22年度 営繕業務の契約概要 | 4 |
| 5. 平成22年度 補助事業等設計審査の概要 | 4 |
| II. 特集 | |
| 特集-1 沖縄県警察運転免許センター | 6 |
| 特集-2 沖縄県立芸術大学美術工学部 | 10 |
| 特集-3 八重山特別支援学校校舎 | 12 |
| III. 主な完成建物 | |
| 1. 文化環境部 ヤンバルクイナ飼育下繁殖施設 | 14 |
| 2. 観光商工部 沖縄IT津梁パーク・中核機能支援施設B棟 | 15 |
| 沖縄IT津梁パークBPOセンター | 16 |
| 3. 土木建築部 (1)中城公園自然学習エリア・自然共生エリアトイレ | 17 |
| (2)中城湾港(新港地区)東ふ頭上屋 | 18 |
| (住宅課) (3)県営豊見城団地 | 19 |
| (4)県営名護団地 | 20 |
| (5)県営上田団地 | 21 |
| 4. 教育庁 (1)美里高校校舎 | 22 |
| (2)豊見城高校校舎 | 23 |
| (3)那覇高校屋内運動場及び水泳プール | 24 |
| (4)宮古総合実業高校校舎 | 25 |
| IV. 工事記録 | 26 |
| V. ESCO事業 | 38 |
| VI. 利用者満足度調査 | 39 |
| VII. 資料 | |
| 1. 事務分掌と組織 | 40 |
| 2. 事業・手続きの流れ | 41 |
| 3. 沖縄県行政機構図 | 42 |
| 編集後記 | 43 |

1. 事業概要

旧運転免許課庁舎は昭和32年の竣工で50年が経過し、老朽化、狭隘化が目立ってきた。運転免許保有者の増加に伴い増築整備されてきたが、狭小な敷地にあってそれらも限界にきており新たな敷地における早急な整備が求められている。

こうした状況を改善するために、新しく開発が進む豊見城市豊崎タウンに敷地を確保し、新庁舎を建設することになった。

計画にあたっては、運転免許センターとして必要な機能要件等を十分考慮して設計を進めた

2. 施設概要

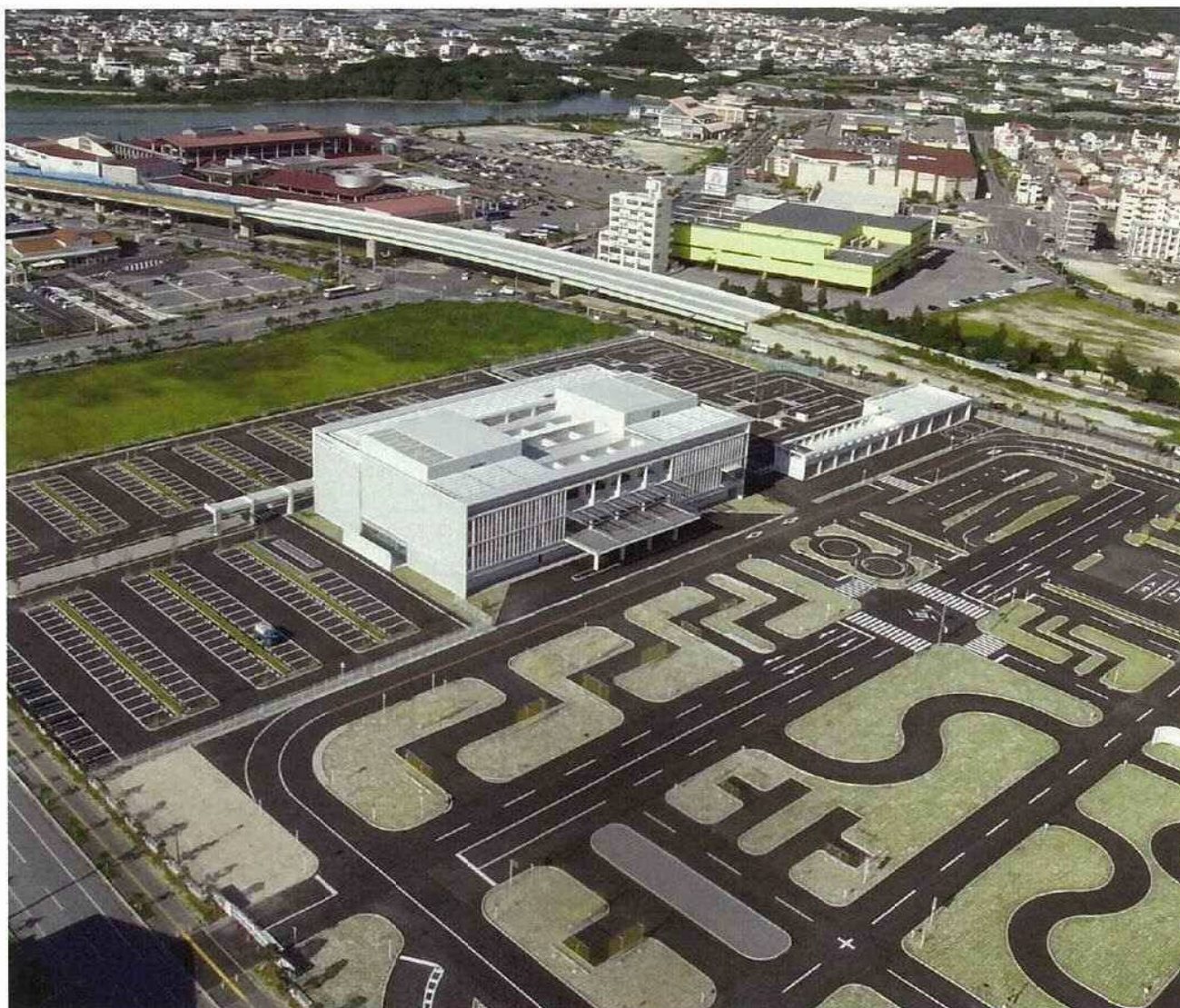
所在地：豊見城市字豊崎

工期：平成21年03月～平成22年09月

構造・階数：鉄筋コンクリート造 地上4階建

敷地面積：48,879㎡

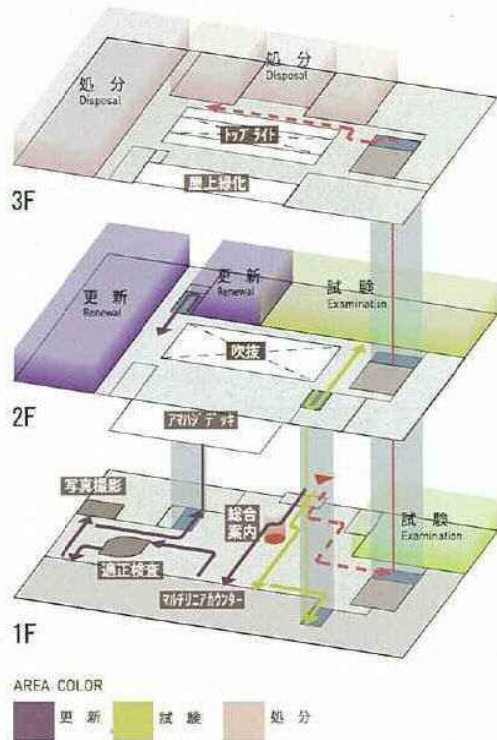
延床面積：8,219㎡



3. 設計コンセプト

(1) 誰にも快適な施設計画

吹抜を中心としたシンメトリーな平面計画を基に、サインシステム・動線・空間構成に工夫をこらした。明快でわかりやすく、誰にでも使いやすい施設となっている。



■ エントランスホールの総合案内



■ 更新エリア階段



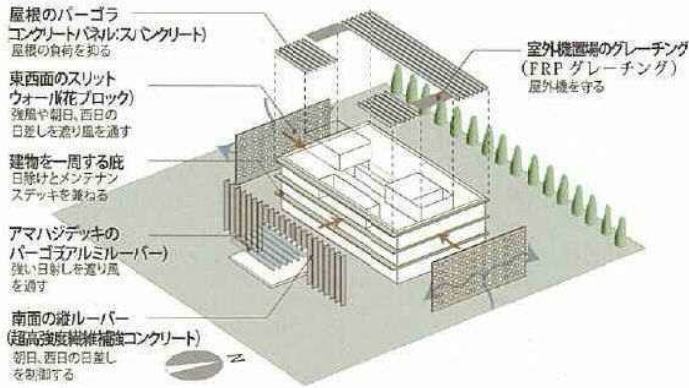
■ 試験エリア階段



■ 吹抜を活かしたわかりやすいサインシステム

(2) 沖縄の気候風土に合った施設計画

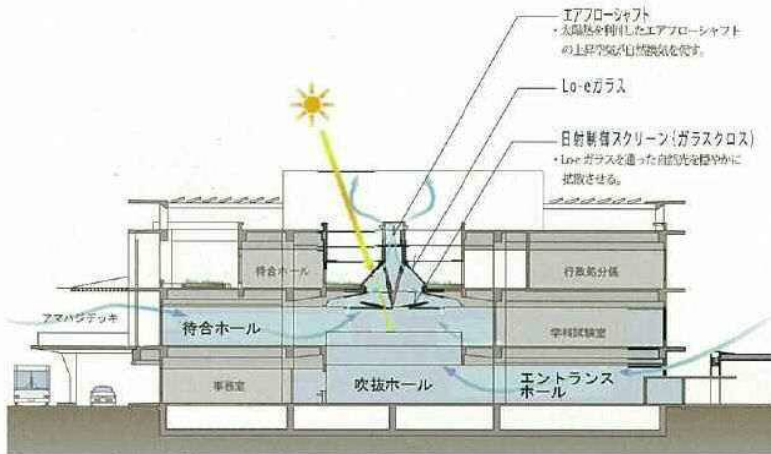
沖縄の気候風土に合った施設を目指し、建物配置は太陽方位や風向に配慮している。ルーバーやスリットウォールを設けて強い日差しや風から建物を守る一方、自然風を通し、光を取り込む工夫をしている。また、地域特性から求められる耐久性のある建物とし、施設の特性や環境に見合った合理的な設備、構造としている。



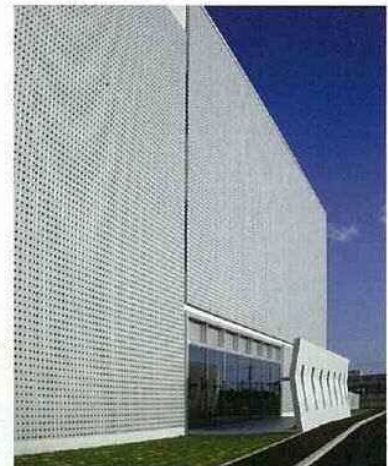
建物にかかる負荷低減の対策



■南面の縦ルーバー



自然風や光を取り込む工夫



■東西面のスリットウォール



■南面ファザードの構成

(3) 地域のランドマークとしての顔づくり

県警の重要施設として、端正で均整のとれたデザインとした。新しく開発された豊崎タウンの中心地域にあり、県民になじみのある花ブロックを利用してる。都市のランドスケープとしてのファザードづくりを行った。航空路の直下にあることから、上空からの景観にも配慮した。



■ 幹線道路側航空写真



■ メインアプローチの庇



■ メインアプローチ側遠景



■ 幹線道路側遠景

1. 事業概要

沖縄県立芸術大学は、昭和61年4月に開学した。その際、譲渡された美術工芸学部のデザイン・彫刻棟等の既存建物が築40年以上を経ており、老朽化が著しいため今回の立替となった。しかし、現地の中に建て替えを行う余地がないこと、さらに、当該敷地が首里城公園に隣接し、景観や周辺環境への配慮を高く求められることを踏まえ、建学理念、教育機能等を損なわず、諸問題が解決可能な場所に施設を移し、安全・安心な教育環境、機能を確保することが求められていた。

こうした状況を踏まえ、県有地であり、現キャンパスから近距離である、旧農業試験場跡地の一部に敷地を確保し、新キャンパスを建設することになった。計画にあたっては、沖縄県立芸術大学のアドミッション・ポリシー「教育理念・本学の求める学生像」及びカリキュラムポリシーを踏まえ、施設全体の利便性、機能性を考慮して設計を進めた。

2. 施設概要

所在地 : 沖縄県那覇市首里崎山町

工期 : 平成22年9月～平成23年3月

構造・階数 : 鉄骨造 地上1階建て(1棟)、2階建て(3棟)、3階建て(1棟)

敷地面積 : 22,158.54 m²

延べ面積 : 9,402.65 m²



中央・デザイン棟



多目的ホール



木工室

3. 配置計画

管理部門が含まれている中央・デザイン棟は、来客者や学生相談に対応しやすいよう交流広場に面した北側ゾーンに配置し、粉塵、煙、音の出る工房を抱える陶芸コースや彫刻専攻は、近隣の民間施設より離れた南側のゾーンに配置し、近隣に配慮した。



全体配置図

4. 施設整備方針

緑あふれる自然環境の中で学生の豊かな才能を引き出し、世界に向けて発信できる環境を整え、学生や周辺地域との交流の場として、作品展示、発表が出来る空間を計画した。



工芸棟



工芸棟引染工房



彫刻棟



彫刻棟 講義室

1. 事業概要

八重山特別支援学校は、昭和54年に建設され30年を経て、老朽化が進行しており、教育環境の改善を図るため、改築工事を行うこととなった。

当該学校は幼稚園から高等学校までの幅広い生徒が利用する教育施設であり、今回の計画では新たに幼稚舎及び寄宿舎を併設した。これにより早い時期からの教育が可能になるなど、児童生徒の教育環境の向上に寄与する施設となっている。

また、校内には手入れされた美しい緑が多く、改築工事に際し、緑化で表彰を受けている花道や既存の樹木を最大限活用した計画とするなど、自然と調和した健康的で明るい学校となっている。

2. 施設概要

所在地 : 沖縄県石垣市字宮良

工期 : 平成21年03月～平成22年04月

構造・階数 : 鉄筋コンクリート造 地上2階

敷地面積 : 25,1041㎡

延べ面積 : 5,807.94㎡



施設正面玄関



北側



西側



交流広場



中庭



屋内運動場及びプール棟

3. 配置計画

施設は東西軸配置を基本とし、交流広場を中心に、校舎・寄宿舍・屋内運動場などを配置し、周回性のある計画とすることで、狭小な敷地にもかかわらず、どの場所にも自然の光があふれ、風がわたるよう、健康的で明るい校舎としている。



全体鳥瞰図(パース)

4. 施設整備方針

施設整備にユニバーサルデザインを取り入れるとともに、生徒や先生方とのミーティングを重ね、スロープ、手すり、便所、出入口及びエレベーターなど、施設使用者の意見を幅広く取り入れ、幼児児童生徒の状態や特性等を踏まえた、より使いやすく、より快適な施設をめざし計画を行っている。また、プールは水深を3段階に設定し幅広い学年の生徒が利用できる施設とした。



各棟を繋ぐ中廊下



寄宿舍 交流ホール

ヤンバルクイナ飼育下繁殖施設管理診療棟・飼育棟)

施設概要

所在地 : 国頭村字安田
工期 : 平成21年12月～平成22年9月
構造・階数 : 壁式鉄筋コンクリート造平屋建
敷地面積 : 7,146.06m²
延べ床面積 : 管理棟 : 165.54m²、飼育棟A棟 : 232.01m²、飼育棟B棟 : 106.26m²、渡り廊下 : 33.56m²
合計 : 537.37m²

設計主旨

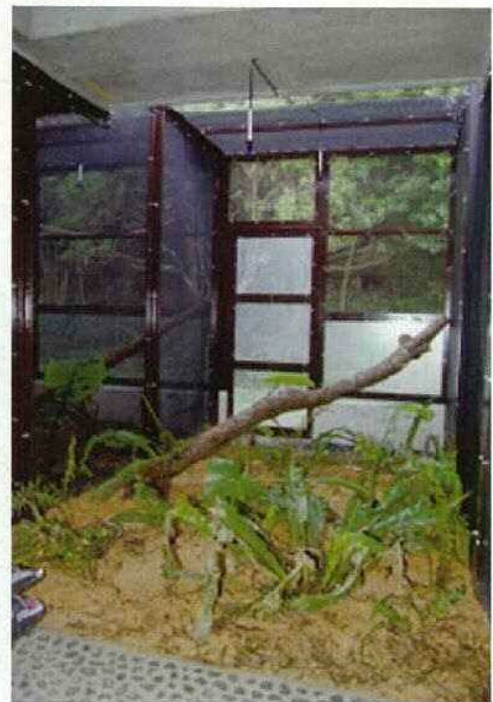
沖縄県北部の山原の森に生息する鳥、ヤンバルクイナは、ノネコやマンガースの北上で生息個体数が急激に減っていることに加え、交通量の増加による交通事故も多発しており、1991年には環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている。この施設は、ヤンバルクイナを保護するとともに、飼育下において繁殖・増殖させ個体数の回復を図ることを目的とした施設である。平成20年度に完成した検疫隔離棟に続き、管理診療棟、飼育繁殖を計画した。各施設を有機的・機能的に配置させることにより、ヤンバルクイナの生態解明及び繁殖技術の確立を目指している。



飼育棟 外部



管理診療棟 外部



飼育棟 内部